

徳島県立那賀高等学校

せせらぎ新聞

第71号

発行/那賀地域中高一貫教育
研究委員会事務局
(徳島県立那賀高等学校内)
電話: 0884-62-1151
FAX: 0884-62-2590
那賀高校ホームページURL
http://naka-hs.tokushima-ed.jp/

第69回卒業証書授与式

3月1日(月)、第69回卒業証書授与式が、ご来賓・保護者のご臨席のもとで厳かに挙行されました。新型コロナウイルスの影響で規模が縮小された形での式となりましたが、卒業生62名は、ピンクのガーベラのコーサージュを胸に飾り、晴れやかな表情で式に臨みました。「卒業証書授与」では、担任が一人一人を呼名し、卒業生たちは3年間の思いを込めて返事をしました。その後、普通科45名の総代として中泉紗姫さんが、森林クリエイト科17名の総代として渡越翔也さんが登壇し、それぞれ凛とした表情で学校長から卒業証書を受け取りました。

この日授与された卒業証書は、卒業生一人一人が自らの手で漉いた拝宮和紙によるものです。昨年12月の寒い中、3年生全員が冷たい水と格闘しながら完成させた、文字どおり世界に一枚だけの思いの詰まった卒業証書となりました。

続く「式辞」では、乾校長が「このような変化の激しい状況であるからこそ、逞しく生きていくために自ら学び続けてほしい。未だ見つけていない自分を発見し、磨きをかけて努力をしてほしい。」と述べ、そして山本有三の『路傍の石』の一節を引用し、「たった一人しかいない自分自身のかげがいのない人生を、大切に生きていってほしい。」と卒業生たちに語りかけました。

式は厳粛な中にも、温かい雰囲気の中、進んでいき坂口那賀高校振興協議会



31HR



32HR



33HR

長の祝辞のあと、在校生代表としてただ一人参加した、生徒会長の西達矢さんが、「送辞」を述べました。西さんは、那賀高祭など卒業生とともに過ごした時間を振り返り、卒業生への感謝の思い、そして那賀高校の伝統を受け継いでいくという決意を語りました。

続いて卒業生を代表して岩野李実花さんが、「答辞」を述べました。岩野さんは3年間の振り返りながら、支えてくれた人々への深い感謝の思いと、友達と過ごした時間の素晴らしさについてふれ、最後に「那賀高校で培った力をこれからの糧とし、誇りを持ち進むこと、決意の言葉を述べました。」と力強くとした言葉の響きに、式場全体が大きな感動に包まれました。

その余韻が残る中で、「卒業生退場」となり、卒業生たちは正・副担任に向かって万感の思いを込めた挨拶を述べたあと、鳴り止まぬ拍手の中、式場を後にしていきました。

その後、各教室で最後のホームルーム活動が行われました。本来ならば保護者の方々も教室に入っていたところでしたが、今年度は新型コロナウイルス感染防止対策として、三密を避けるため体育館に残っていたいただき、オンライン形式で参加していただきました。教室で担任から一人一人に卒業証書が手渡される様子や、正副担任から最後のメッセージが贈られる様子がパソコンを通してテレビに映し出されるのを、保護者の方々はいき入るようにつめていました。

第69回卒業証書授与式は、昨年度と同様、大きく制限された式になりましたが、多数のご来賓や保護者の方にご臨席いただき、卒業生一人一人の旅立ちを祝福する気持ちに溢れた、心に残る感動的な式となりました。ご臨席いただいた皆さまに改めて感謝申し上げます。



この那賀高校でたくさんの方々と出会い、多くのことを学び、心身ともに成長した卒業生たち。この日を迎えられるのは、本人の努力はもちろんのこと、家族や友人をはじめ、多数の方々の支えや協力のおかげだと思えます。卒業生の皆さんには、こうした支えに対する感謝の気持ちを忘れず、力強く未来を切り拓いていってほしいと願っています。皆さんの将来に幸多からんことを、お祈りしています。



若鮎寮 送別会&卒寮式

1月28日(木)、若鮎寮にて、卒業を控えた男子9名の送別会が行われました。共同生活の中で築いてきた若鮎寮・竜峰寮生の「絆」がさらに深まり、心に残る送別会となりました。また、2月28日(日)に行われた卒寮式には、卒業生と関係職員が参加しました。新寮生長からは卒業生へ、3年生からは調理員さんや舎監の先生へ感謝の言葉を伝え、教職員からは記念品が贈呈されました。「今後は、新3年生が中心となり、受け継いできた若鮎寮・竜峰寮の良き伝統をしっかりと引き継いでいきたい。」と新寮生長が決意を述べました。温かい雰囲気の中、卒寮式となりました。



卒業生の主な進路決定先&メッセージ

進学
都留文化大学
私立文化大学
私は、高校生活の中で人との繋がりの大切さを学びました。これまで楽しく日々を過ごしてこられたのは、家族・友人・先生方の支えがあったからです。3年間は短いですが、その間に生まれた繋がりは一生の宝です。

徳島大学
私は、2年生の頃から目標を持ち、その達成のために苦しい部分を克服する努力をしました。高校3年間はあつあつという間に終わってしまっているので、一日一日を大切に過ごしてください。

南九州大学
「いつか挑戦者」私はこの言葉を胸に、日々、自分の目標に向け頑張ってきました。先生方にご指導いただき友人達に励まされながら、自分の夢に近づきました。皆さんも、先生方や友人達の絆を大切に、自分の夢に挑戦してください。

徳島文理大学
高校での3年間は、とても貴重な時間です。その中で、たくさんの事に積極的に取り組む、自信をつけることが大切だと思えます。皆さんも様々なことに挑戦し、目標に向かって頑張ってください。

京都医療専門学校
高校生活の3年間は、とても短かったです。一日一日を大切に、たくさん思い出を作ってください。そして、目標に向かって頑張ってください。fight!

健祥会学園
私は、中学生の頃から介護福祉士になりたいという夢を持ち、その夢に向かって何事にも精一杯取り組んできました。高校3年間は、あつあつという間に過ぎています。皆さんも自分の夢に向かって頑張ってください。

就職
株式会社 大塚製薬工場
高校生活はあつあつという間に過ぎていきます。これから先、大変なことや苦しいことがたくさんあると思いますが、進路実現に向けて頑張ってください。先生方3年間本当にありがとうございました。長生堂製薬株式会社

東西電工株式会社
高校生活ではいろいろなことがありました。「あれをやっておけばよかった。」と考えることはたくさんあります。在校生の皆さんは、後悔のないように、今しかできないことを満足できるまでやり遂げ、3年生の進路決定に役立ててください。

三好西部森林組合
高校3年間は、一日一日が充実していました。3年間で、これから必要な事や精神面や体力面で大きく成長できました。これから生きていく中で、後悔のない人生にしていきたいです。3年間ありがとうございました。

徳島県職員 林業
この3年間は、とても充実した高校生活でした。その様に過ごせたのもたくさんの方に会って、支えていただいたからだと思います。皆さんも周りの人に感謝をし、これからも頑張ってください。

徳島県警察
3年間はあつあつという間に終わりました。1年生は、後2年あるのではなく、2年しかないと考えてください。また、2年生は最高学年になるので、自覚を持つと同時に、就職試験まであつあつという間なので、危機感を持ってください。

連携中学校とのテレビ会議



1月26日(火)、連携中学校とのテレビ会議が開催されました。本校からは生徒会役員を中心に、各中学校の出身者が参加し、和やかな雰囲気の中に会議は進みました。前半は、各校生徒の自己紹介と学校紹介があり、各中学校とも学校の目標達成のために、活発で工夫が凝らされた学習活動が行われていることがよく分かりました。

後半は、質疑応答を行いました。学科や部活動、行事や勉強のことまで、高校生活全般にわたる質問があり、とても那賀高校に興味をもってくれていることが伝わってきました。「那賀高校のいいところは?」「那賀高でしかできないことは?」「那賀高に進学した理由は?」など、高校生が自分の学校や学校生活について振り返らなければならないような鋭い質問もあり、初心に返られるような場面もありました。

終了後の感想として「那賀高校について改めて考えることができた。」「中学生の欲しがっている質問に答えられなかった。」などがあげられ、中学生と交流して多くの刺激を受けたようです。

これからの高校生には身につけた知識を活用する力が求められています。これらは一朝一夕には身につけません。学校内外の様々な営みの中で、しっかり考え、試行錯誤を繰り返す必要があります。今回テレビ会議に参加した生徒は、これらの力を身につけるきっかけにしてもらえたら嬉しいです。最後になりますが、ご指導・ご協力いただいた各先生方に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



校外林業実習

令和2年11月30日(月)、12月1日(火)の2日、那賀町町有林において、森林クリエイト科2年生19名を対象に、伐木・測量実習を実施しました。実施にあたり、那賀町役場林業振興課や徳島県南部総合県民局・榎谷林業など、たくさんのご協力をいただき、専門学習の深化を図る学習ができました。関わっていただいた方々のおかげで、普段の学校生活では体験できない経験を得ることができました。

この経験をこれからの専門学習や将来に役立てられるように頑張りたいと思います。



「まなぼうさい活動賞」受賞

本年度、那賀高校防災クラブの活動が評価され、「令和2年度 徳島県まなぼうさい活動賞」を受賞しました。1月20日(水)に、県庁で行われた「まなぼうさい活動賞表彰式」において、飯泉知事より表彰状が授与されました。コロナ禍の影響で、校内での活動が中心となりましたが、今できることを考え行動することができた実りのある一年となりました。今後も防災クラブの活動を、より一層活発にしていきたいと思っております。2月には、那賀川河川事務所のご協力で「なかなか美味しい防災食レシピ集」を発行し、全校生徒と教職員に配付することができました。本校の防災に関する活動は、年々充実してきています。日頃から地域の皆様のご理解とご協力に感謝申し上げます。



拝宮和紙卒業証書作成

本校は、平成28年度の森林クリエイト科開設当初から、旧上那賀町拝宮地区に伝承されている「拝宮和紙」について学習しています。その成果として、1期生が卒業を迎えた一昨年度より、卒業証書製作の取組をスタートさせました。本年度も、12月に普通科・森林クリエイト科3年生全員が紙漉き実習を行い、世界で1枚だけのオリジナル卒業証書を作製しました。丹生谷の自然の恵みと、思い出の詰まった卒業証書を手し、新たな進路で精一杯活躍してくれることを願っています。



花火大会

令和3年1月19日(火)、那賀高生デザインによる花火大会を開催しました。この花火大会は、岸火工品製造所の全面的な協力により実現しました。今年度はコロナ禍の影響で、那賀町においても様々なイベントが中止となる中、同製造所の岸洋介氏は、那賀高校を少しでも盛り上げることができればという思いで、快く引き受けてくださいました。



今回の花火大会では、事前に那賀高生に花火デザインを募集し、その中から10種類を採用し、花火を作成していただきました。大会本番では、まず、3発ずつ生徒デザインの花火を打ち上げました。それとともに、花火をデザインした生徒が考えた花火の紹介文と、卒業を控えた3年生へのメッセージ文を、生徒会役員が代読しました。寒い中での開催となりましたが、花火への思い、3年生への感謝のメッセージが放送されると、心温まるほっこりした雰囲気になりました。また、フィナーレには約90発の花火がどんどん打ち上がり、花火師の力強さを感じるとともに、大変感動する花火大会となりました。

コロナ禍により悲しい1年となるのではなく、コロナ禍だからこそ実現したこの華やかな花火大会のように、一人一人の心の中に少しでも素敵な華が咲きほこってくれば幸いです。



花火大会の開催に尽力していただいた岸火工品製造所のスタッフの皆様方には、感謝を申し上げますとともに、今後ますますのご活躍をお祈りしています。本当にありがとうございました。

エシカルクラブ

「古着deワクチン」プロジェクトに参加

2月初旬、「服活」で回収した余剰服の一部を「古着deワクチン」に1袋(20kg)を寄付しました。ポリオワクチン代として利用されたり、発展途上国における現地での雇用の促進につなげたりしています。「服活」を通して、国際支援ができることを嬉しく思います。



100年先を創る起業者育成事業

令和3年1月13日(月)、2月13日(土)、20日(金)の計3回、「100年先を創る起業者育成事業」の一環として、徳島県主催の「徳島県版マイスター制度関連事業」に森林クリエイト科2年木材加工専攻の生徒が参加し、職人の指導のもと体験・実技研修を行いました。初回は、あすたむらんど内「とくしまぶつかいプラザ」の建築物の解体作業をしました。2回目は、「勝浦町かんきつテラス徳島」の図書室のリノベーションを行い、3回目は、あすたむらんどで解体した建築物を「かんきつテラス徳島」に移築しました。職人の方から建築に関する基礎的な知識や技術を学ぶことができ、貴重な経験となりました。



予餞会

1月29日(金)、予餞会が行われました。今年度は新型コロナウイルス感染症予防のため、Zoomや校内放送を活用し、各教室での実施となりました。初めての試みであったため、機材トラブルも生じましたが、生徒達はその時間も楽しんでくれていました。生徒会長の挨拶を皮切りに、『映画ドラえもん のび太の新恐竜』の鑑賞、教員が中心となって作成した「思い出ムービー」生徒会からの「メッセージムービー」の鑑賞など、楽しい時間を過ごしました。旧職員からのメッセージ、3年間を振り返る数々の写真や動画など、笑いあり涙ありの内容となりました。最後の3年生代表としての前生徒会長の挨拶では、涙を浮かべる生徒も多く、良い思い出となりました。

